

伊平屋・伊是名—その地理的概況—

堂 前 亮 平

1. 伊平屋・伊是名の自然環境

1) 位置と面積

伊平屋島は、沖縄本島北部本部半島の北方約49kmにあり、有人島としては沖縄県最北端の島である。伊平屋島の南西には架橋によって結ばれている野甫島がある。伊平屋村はこの2島からなっている。また、伊平屋島の南約5kmに位置する伊是名島は、本部半島の北方約35kmにあり、その周辺にある無人島の具志川島・屋ノ下島・屋那覇島・降神島などの島を含め、伊是名村を形成している。

伊平屋島の数理的位置は、北緯27°2'、東経127°58'、伊是名島の数理的位置は、北緯26°56'東経127°56'である(図1)。

伊平屋島への交通は、かつては第一伊平屋丸と第三伊平屋丸の両船が就航していたが、現在は500トンの「フェリー伊平屋」の就航によって、輸送力が大幅に増強し、本部港を1日1往

表1 沖縄における島の面積と人口

	島名	面積	人口 1980年10月1日
1	沖縄本島	1,188.40km ²	(注1) 973,885人
2	西表島	284.44	1,533
3	石垣島	221.09	38,819
4	宮古島	158.37	48,145
5	久米島	55.69	10,164
6	南大東島	30.74	1,640
7	伊良部島	30.48	9,153
8	与那国島	28.52	2,119
9	伊江島	22.55	5,039
10	伊平屋島	20.99	(注2) 1,414
11	多良間島	19.98	1,651
12	渡嘉敷島	15.64	830
13	伊是名島	13.84	2,144
14	北大東島	12.71	658
15	波照間島	12.46	760

(注1) 大宜味村宮城島
名護市屋我地島
与那城村宮城島
〃 平安座島
玉城村 奥武島
は沖縄本島に
含まれる

(注2) 伊平屋村野甫島を含む

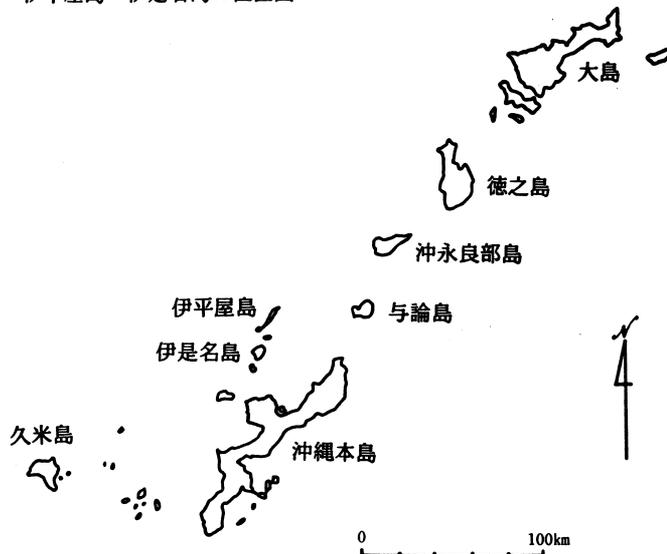
資料：沖縄県統計年鑑(昭和57年版)

復2時間で結んでいる。一方、伊是名島への交通も、1983年に「フェリーいぜな」の就航によって大幅に沖縄本島との間の時間距離を短縮した。

伊平屋島の面積 20.99km^2 、野甫島の面積 1.10km^2 、伊是名島の面積 13.84km^2 、具志川島 0.42km^2 、屋那覇島 0.82km^2 、屋ノ下島 0.23km^2 、降神島 0.07km^2 あり、沖縄県における島嶼別面積順位で見ると、伊平屋島は第10位、伊是名島は第13位にランクされる。

図 1

図1 伊平屋島・伊是名島の位置図



2) 地形・土壌

琉球弧の地質構造は、帯状構造がみられ、大陸側から太平洋に向かって①新第三系火山岩帯、②第四紀火山岩帯③古期岩帯④新第三系帯に区分されるが、伊平屋島・伊是名島などからなる伊平屋諸島は古期岩帯に属する。

伊平屋島の地形は島の西海岸よりに、北東から南西方向に後岳（231m）、腰岳（227m）、賀陽山（294m）、阿波岳（212m）などの山地が連なっている細長い島である。基盤は主として古生代本部層のチャートや中生代の砂岩、頁岩などからなっている。北西海岸には海食崖が発達している。島の最南端の米崎には砂嘴が発達している。また、野甫島は琉球石灰岩からなる低平な島である。土壌は伊平屋島の山地部においては国頭マージで、低地部は沖積土壌でおおわれている。野甫島は全島島尻マージでおおわれている。

伊是名島の地形は、大野山（119.9m）・天城（102m）・アーガ山（82.1m）・チジン山

図2 伊平屋島・野甫島の地形



(119.6m) などの丘陵性の山地が北西から南東方向へ走っているほか、北東部にはメンナー山 (84.9m) があり、北西から南東方向へ走る、これらの山地をとりかこんで数段の段丘と低地が複雑に広がり村落と耕地が開けている。

伊是名島の地質はおもに砂岩と、北側と南側の古生代本部層のチャートからなる。他の島は低平な隆起サンゴ礁からなっている。

土壌は、伊是名島の山地は国頭マージでおおわれ、低地は沖積土壌が分布している。

具志川島と屋ノ下島は島尻マージで、屋那覇島は島尻マージと沖積土壌からなる。

気 候

表2は、沖縄気象台伊是名観測所の資料による1978年から1983年までの気温と降水量を示したものである。観測期間が短いため平均的な値とはいえないが、おおよそのことは概観することができる。1978年～1983年までの年平均気温は21.6°Cで那覇の22.4°Cよりは低い。若干低い。20°Cを越える月は4月から11月まで8カ月間続く。那覇での最暖月は7月、最寒月は1月であるが、この資料でみる限り、伊是名の最暖月は8月、最寒月は2月となっており、1カ月ずれている。

降水量は年2,000mm 前後の降水量があるが、年によって著しい変動がある。1981年の降水量は半年の半分に近い1,220mmであったが、1978年には2,573mmの降水量を記録するなど、大幅な差がみられる。また、月別でも、1980年の6月はわずか6mmで、この月は1年で最も降水量があるにもかかわらず極端に少ない月であった。このように降水量は年によって変動はあるものの、平均年約2,000mmの降水量があり、亜熱帯湿潤気候に属しているといえる。

表2 伊是名島における気温と降水量

気 温 (°C)

月 年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年平均
1978	15.0	14.7	16.5	19.8	22.4	25.2	27.6	×	26.7	24.5	21.1	18.1	×
1979	16.7	16.3	17.7	20.4	21.2	25.3	28.5	28.0	27.1	23.2	20.3	18.5	21.9
1980	15.4	14.2	18.0	19.7	22.7	27.0	28.5	28.4	27.2	24.0	21.3	15.9	21.9
1981	14.2	15.4	18.0	20.5	21.5	25.0	27.2	28.2	26.0	23.8	20.2	16.4	21.4
1982	14.6	16.0	18.5	19.2	23.1	24.1	27.3	27.2	25.8	23.3	21.4	17.3	21.5
1983	16.2	15.0	17.2	21.6	23.0	24.9	27.4	27.6	27.3	25.3	20.1	15.8	21.3
那覇(1951~1980)	16.0	16.4	18.0	21.0	23.7	26.1	28.1	27.8	27.1	24.3	21.3	18.1	22.4

降 水 量 (mm)

年	月												年
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
1978	112	83	232	181	296	208	277	551	131	387	35	70	2573
1979	213	306	376	233	202	230	76	15	23	15	184	63	1936
1980	232	135	148	440	286	6	94	138	195	102	25	25	1826
1981	39	130	139	149	193	39	168	15	40	110	128	70	1220
1982	63	143	125	142	396	252	50	135	197	128	136	183	1950
1983	135	167	357	215	348	355	216	249	131	46	27	55	2301
那覇(1951~1980)	119.6	117.9	143.9	168.1	248.9	292.6	192.6	260.1	166.4	186.2	141.7	116.5	2128.2

2. 伊平屋・伊是名の村落と人口

1) 村 落

伊平屋村には現在5村落がある。すなわち伊平屋島に田名・前泊・我喜屋・島尻、野甫島に野甫がある。前泊は1909年(明治42)に田名から分離した新しい村落である。

村落立地をみると、田名は三方山に囲まれた村落であるが、前泊・我喜屋・島尻の各村落は山を背にして、海岸の沖積低地に立地している。5つの村落はほぼ井然型の村落形態を示している。かつては、港の関係で、村の中心は我喜屋であったが、港が前泊と我喜屋の村落の間に建設されたため、現在、村役場をはじめとして、伊平屋中学校、郵便局、農業協同組合、診療所など村の中核機能が前泊の村落に近接して集まっている。

伊是名村には、現在、仲田・諸見・伊是名・勢理客・内花の5村落がある。かつては具志川島にも明治時代以降人が居住していたが、現在は無人島になっている。

村落は、島の北西から南東方向に連なる丘陵性の山地の北東部(東アガリと呼んでいる)には仲田・諸見・内花、南西部(西イリと呼んでいる)には伊是名と勢理客の2村落がある。

内花は1942年に諸見から分離した村落で、散村形態をなし、他の4村落は井然型村落形態をなしている。仲田には、村役場、伊是名小・中学校、診療所、郵便局、農業協同組合、漁協組合などの官公署のほか商店や各種事業所が立地しており、伊是名村の中心村落となっている。

2) 人 口

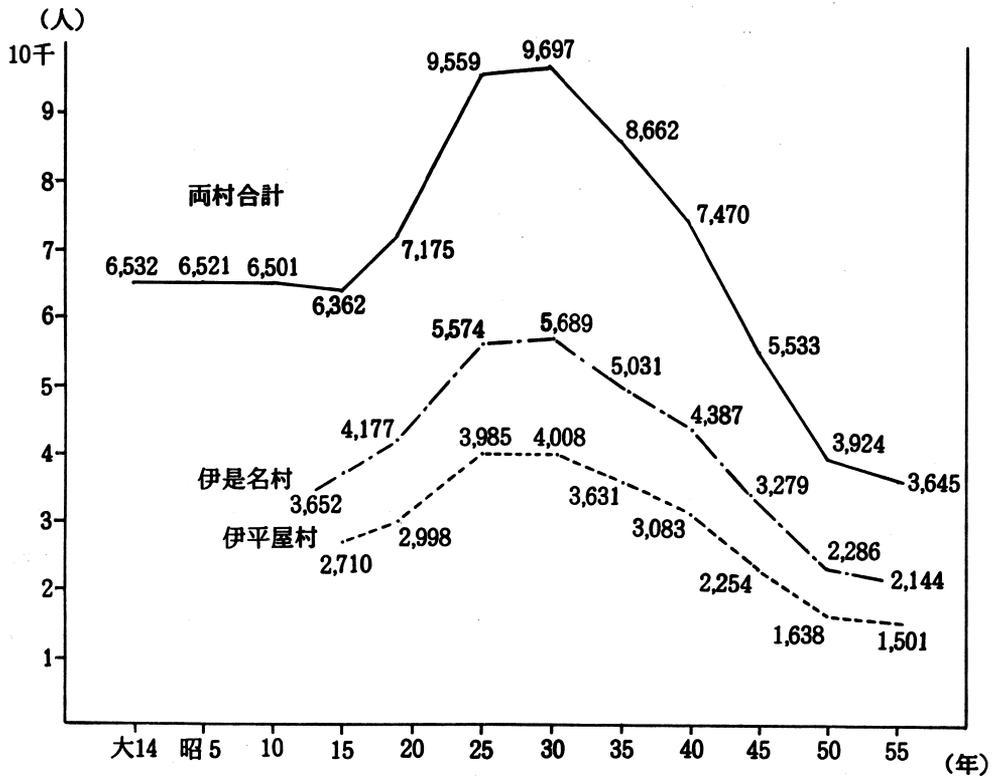
図4は伊平屋と伊是名村の人口推移を示したものである。このグラフから明らかなように、両村の人口推移は同傾向をたどっていることがわかる。すなわち、両村とも1955年に人口総数は最高を示し、伊平屋村で4,008人、伊是名村で5,689人を記録している。その後、急激な人口減少傾向が続き、1975年からようやく減少率は低下した。1980年の人口をみると、伊平屋村1,501人、伊是名村2,144人で、1955年からの人口減少率は両村とも実に約63%の高い減少率を示している。

また、図5は、伊平屋村と伊是名村の年齢階層別人口を示したものである。両村とも1955年

は富士山型を示し、60歳以上の高齢人口の比率は、伊平屋村で9.4%、伊是名村で10.7%であったが、1980年は、高齢人口の増加と15歳～50歳までの人口が著しく少なくなり、「ひょうたん型」を示すようになった。60歳以上の高齢人口の比率を見ると、伊平屋村で23.9%、伊是名村で23.6%を占めており、1955年と比較して大幅な増加を示している。

表3は、伊平屋村と伊是名村の字別人口を示したものである。人口規模でみると、伊平屋村では我喜屋、伊是名村では諸見が大きな村落である。

図4 伊平屋村・伊是名村の人口推移



(注) 国勢調査による。ただし、昭19は国勢調査ではない。

図5 伊平屋村・伊是名村の年齢階級別人口（昭和30年、50年）

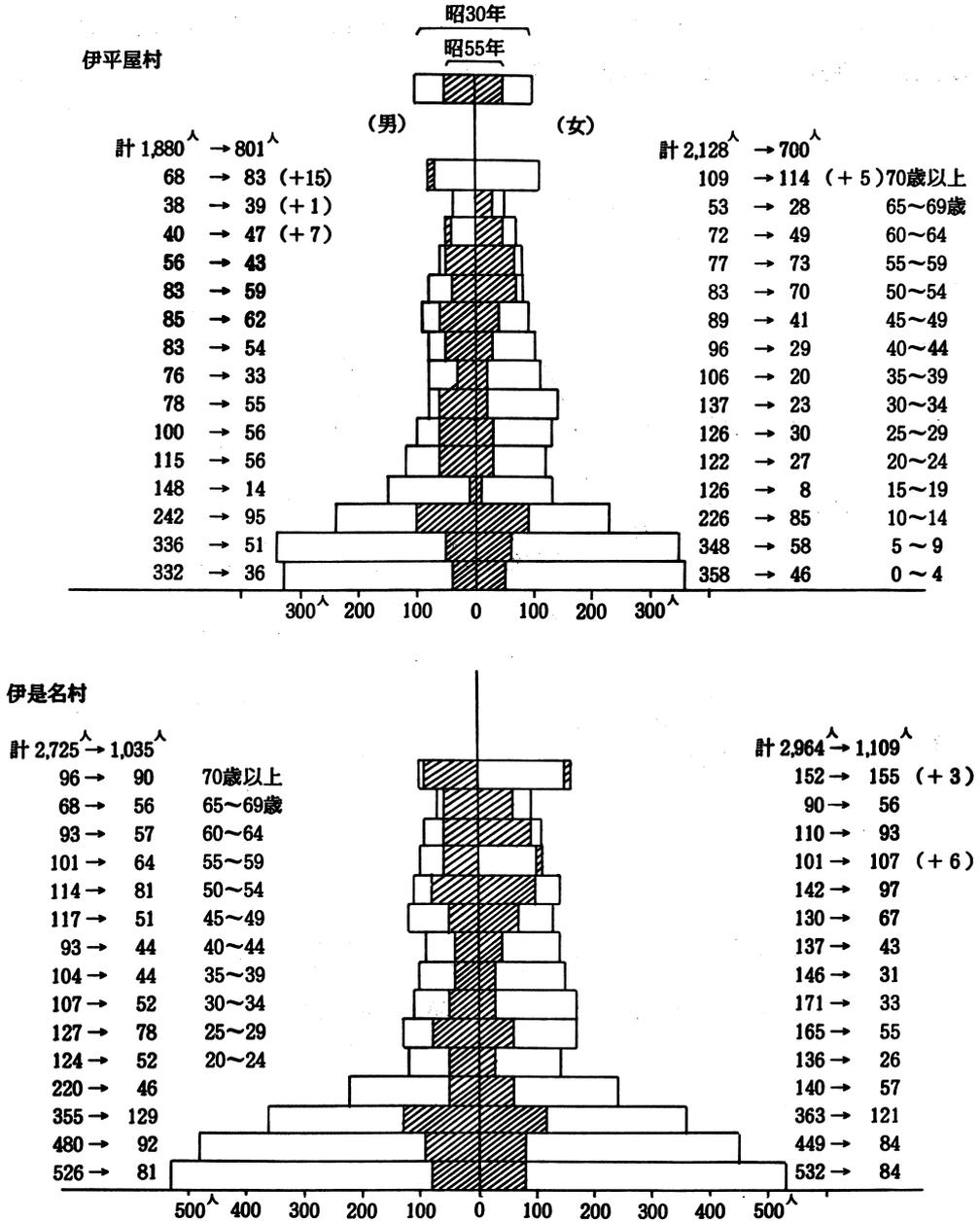


表3 伊平屋村、伊是名村における字別人口

	字 名	1980年(昭和55年)		字 名	1980年(昭和55年)
伊 平 屋 村	田 名	364 ^人	伊 是 名 村	伊 是 名	500 ^人
	前 泊	245		仲 田	570
	我 喜 屋	472		諸 見	609
	島 尻	393		内 花	201
	野 甫	93		勢 理 客	272
	計	1501		計	2151

3. 伊平屋・伊是名の産業構造

表4は、伊平屋村と伊是名村の産業別就業者数とその割合を示したものである。両村を通じて明らかなのは、農業が主体となっており、ついで第2次産業のうち建設業が特化していることである。すなわち、伊平屋村では就業者数822人のうち、農業に従事している人は373人(45.3%)、建設業189人(22.9%)となっているが、これに対して伊是名村では就業者総数1,031人、このうち農業就業者数は504人(48.8%)、ついで第2次産業の建設業119人(11.5%)となっており、農業就業者の割合をみると伊是名村の方が高率であるが、建設業就業者の割合は伊平屋村の方が高率である。

図6は伊平屋村と伊是名村の産業別就業者数とその構成比の年推移(1965年～1980年)を示したものである。就業者総数の推移をみると、伊平屋村では1965年の就業者総数1,311人が、その後減少していき、1975年に767人になったが、1980年には若干増加している。この増加の大きな要因は建設業就業者の増加である。すなわち、伊平屋村では1978年からの土地改良事業、前泊港や島尻漁港などの港湾の整備事業、学校の建設事業が相ついでおこなわれるようになった結果、雇用の場が増加し、それに伴う就業者の増加である。これに対して、農林業就業者数の減少は著しい。一方、伊是名村では、就業者総数は減少しているものの、その減少率は低下している。この要因は伊平屋村と同様に、農林業就業者数の著しい減少がみられるものの、建設業就業者数の増加が、伊平屋のように顕著ではないが、徐々に増加していることがあげられる。

両村を通じて、産業構造は農業が主体であるが、耕作物に若干の特色がみられる。

表5は伊平屋村と伊是名村における作物の収穫面積(1979年)を示したものである。この表から明らかのように水稲が大きな比重をもっている。沖縄県全体で水稲が姿を消しつつある現在、特異な存在といえよう。伊平屋村は戦前から水田が多く米の産地として知られているが、現在さとうきびと水稲を二大作物とし、豚や肉用牛の畜産との複合経営がおこなわれている。一方、伊是名村も、伊平屋村と同様に、米の産地として知られていたが、現在農業はさとうきびを基幹作物として、伝統的な稲作もおこなわれ、近年は葉たばこも栽培されている。また、豚や牛

などの畜産もおこなっている。

両村とも漁業はわずかに沿岸漁業がおこなわれているにすぎないが、近年、モズクの養殖もおこなわれるようになった。

表4 伊平屋村・伊是名村の産業別就業者数(1980年)

(伊平屋村)

総数	第1次産業				第2次産業				第3次産業							
	総数	農業	林業 狩猟業	漁業 水産養殖業	総数	鉱業	建設業	製造業	総数	卸売業 小売業	金融 保険業	不動産業	運輸 通信業	電気・ガス・水道 熱供給業	サービス業	公務
822(人) (100.0%)	410 (49.9)	373	—	37	203 (24.4)	—	189	14	209 (25.4)	42	—	—	24	1	80	62

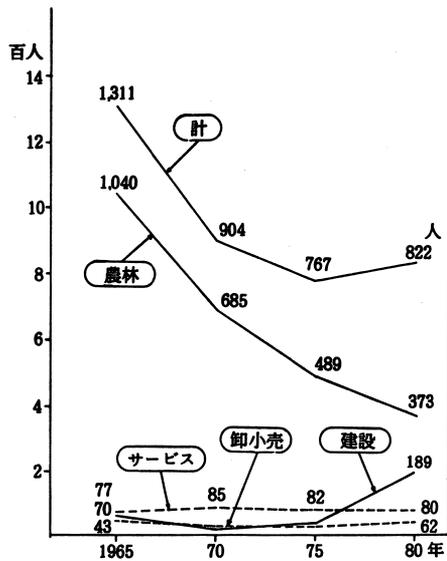
(伊是名村)

総数	第1次産業				第2次産業				第3次産業							
	総数	農業	林業 狩猟業	漁業 水産養殖業	総数	鉱業	建設業	製造業	総数	卸売業 小売業	金融 保険業	不動産業	運輸 通信業	電気・ガス・水道 熱供給業	サービス業	公務
103(人) (100.0%)	584 (56.7)	504	—	80	153 (14.8)	—	119	34	294 (28.5)	73	—	—	28	6	104	83

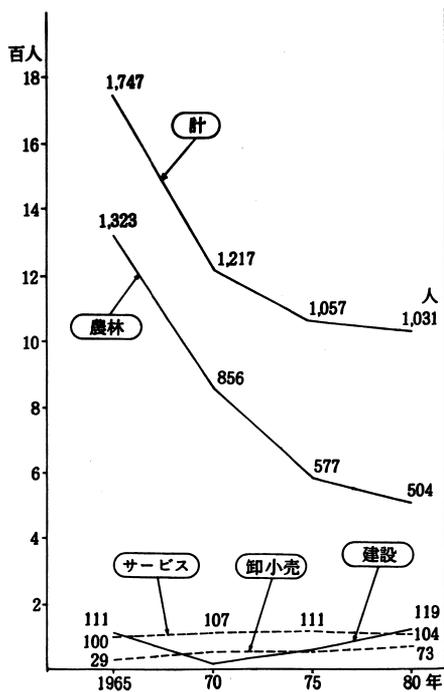
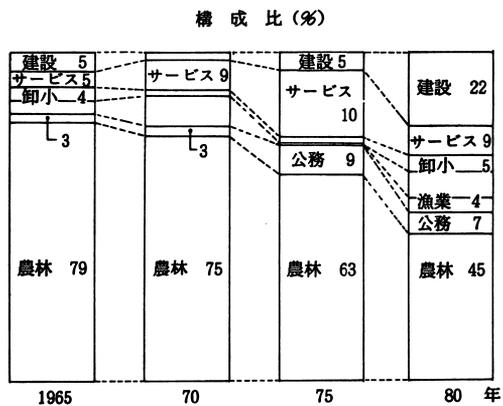
表5 伊平屋村・伊是名村の作物の収穫面積(a)(1979年)

順位	1	2	3	4	5
伊平屋村	水 稲 13,906	さとうきび 11,934	果菜類 201	そば・ひえ・あわ・とうもろこし きび・その他の雑穀 156	根 菜 類 143
伊是名村	さとうきび 32,928	水 稲 8,006	たばこ 1,376	果 菜 類 628	かんしょ 421

図6 産業別就業者数と構成比



伊平屋村



伊是名村

